

『虫さされ』の
対処法

夏はキャンプや山登り、川遊びなどアウトドアで楽しむ予定の人も多いことでしょう。ただ、自然の中には蚊やハチ、ブユ、毛虫、ムカデなど人を刺す虫もたくさんいます。なかでもハチに刺されると生命にかかわることもあるので注意が必要です。

《ハチ》

ハチに刺されると、通常は激しく痛み、赤くはれあがります。ハチ毒は水に溶けやすいので、ハチに刺されたらまず傷口を流水でよく洗い流し、毒をしばらく出します。その際、口で吸うのは避けましょう。毒を出したあとはステロイド含有のかゆみ止め軟膏を塗布します。

スズメバチ、アシナガバチなどに刺されると、30分以内

に全身のかゆみや呼吸困難、血圧低下などの重い症状（アナフィラキシーショック）を起こす特異体質の人がいます。これは大変危険で生命にかかわるので、少しでも様子がおかしいと感じたら救急車を呼ぶなどの速やかな対応が必要です。

巣を見つけたら近づかず、ハチが寄ってきたても手で払ったり急に向きを変えたりせず静かに後ずさりして逃げるのがよいそうです。黒い服はハチの標的になりやすいので、淡い色の服に白っぽい帽子をかぶるのが望ましいでしょう。また、匂いのするものを攻撃する性質があるので、香水や香りの強い化粧品・整髪料は避けましょう。

《ブユ》

3～5mm程度の小型のハエのような血を吸う虫で、刺されたときはあまりかゆみを感じませんが、半日ほどたつと赤くはれ、激しいかゆみを生じます。はれとかゆみは1週間程度続き熱を持つこともあります。刺されたら冷却し、かゆみ止めを塗布しましょう。細菌が入り化膿することもあるのでかきむしらないことが大切です。

《毛虫》

チャドクガの幼虫（毛虫）の毛には毒があり、触れるとじんましん様のぶつぶつを生じ、強いかゆみを覚えます。刺されたらこすらず流水で洗い流すか粘着テープで毛を除き、早めにステロイド軟膏などを塗りましょう。

《虫さされの予防》

野外で虫に刺されないためには長袖・長ズボンを着用し、できるだけ露出部分を減らすことが大切です。露出部分には虫除けスプレーを噴霧しておくとお効果があります。刺されて症状が強くなった場合は医療機関で受診してください。



住民基本台帳閲覧状況の公表

城里町では、平成19年4月1日から平成20年3月末まで次のとおり閲覧を許可しましたので、住民基本台帳法第11条第3項及び第11条の2第12項の規定に基づき公表します。

申 出 者	請求事由の概要	閲覧年月日	住 民 の 範 囲		
			地 名	対 象 者	件 数
株式会社 ビデオリサーチ 代表取締役 木村武彦	日本たばこ産業㈱が実施する「2008年全国たばこ喫煙者率調査」の対象者抽出	平成20年1月18日	大字石塚	20歳以上90歳未満の成人男女	20件
自衛隊 茨城地方協力本部長 防衛事務官 杉本正明	自衛隊法第29条第1項及び自衛隊法第35条に基づく適齢者の把握	平成20年1月31日	町内全域	平成2年4月2日から平成3年4月1日の間生まれの男子	151件

【問合せ】 町民課 ☎029-288-3111（内線110）